

看護学生の精神科看護に関する認識調査

宮 崎 和 子

I 緒 論

昭和41年5月、日本精神科看護協会では昭和40年度精神科看護白書を発表した。「看護者不足について」というサブタイトルのついたこの白書は、いまや恒常的になっている看護者不足について、いろいろの角度から考察を加え、その原因を究明するとともに、各施設の涙ぐましいばかりの、しかし姑息的な人あつめの現状を紹介して、その解決には抜本的国家的対策の必要なことを指摘した。同時に人不足の原因の一つが精神病院自体にもあることに対して、看護者自身の個人的団体的自覚と研鑽を呼びかけたのである¹⁾。

精神科看護そのものの最近の向上はめざましいものがある。また近年、総合看護の観点から、あるいは、精神身体医学の擡頭から、精神科看護は精神看護にも関連して新しく問題にされている。²⁾³⁾

この時にあたり、看護学生の精神科看護に関する認識を調査し、今後の精神科看護教育上の問題とその解決の手がかりを得ようとした。

調査は看護学生として問題になり得るとと思われる次の四点、すなわち、(1)学問的認識(2)社会的認識(3)人間的認識(4)職業的認識に焦点をあわせた。

II 調査対象並びに調査方法

1. 調査対象校の選択は、岡山県下高等看護学校3年課程全校(7校)准看については指定学校養成所名簿⁴⁾より無作為抽出法により同じく岡山県下の10校を選んだ。

調査対象学生は、上記各校の昭和41年12月1日より同年同月21日まで在学の最終学年生である。

2. 調査方法は、Iにおいて記した(1)~(4)の問題に関して適当と思われる質問と択一式による答を設定した質問紙法によった。

III 結果と考察

A 回収状況

背景別回収状況、回答者中精神科看護臨床実習終了未終了別数とその割合、および対象校の実習の程度を表1、表2に示す。

表 1

| 背 景 | 対 象 | | | 回 答 | | | 回答者中実習終了者 | | 回答者中実習未了者 | |
|-----|----------------|-----|------------|-----|-----|------|-----------|------|-----------|------|
| | 〇 県 下 看護学校数 | 校 数 | 学生数 | 校 数 | 学生数 | 率(%) | 数 | 率(%) | 数 | 率(%) |
| 高 看 | 7 | 7 | 172 | 7 | 152 | 88 | 139 | 92 | 12 | 8 |
| 准 看 | 14 | 10 | 334 + x | 9 | 327 | ? | 84 | 25 | 243 | 75 |

表 2

| 実習程度 | 1 週 (39時間) | 1 週 (44時間) | 2 週 (88時間) | 5 週 (150時間) | 1 日 (3~4時間) | 1 日 (5~6時間) | 1 日 (8時間) | なし | 不明 |
|---------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|--------------|----|----|
| 高 看 校 数 | 1 | 4 | 1 | 1 | | | | | |
| 准 看 校 数 | | | | | 4 | 1 | 1 | 2 | 1 |

なお、准看群では対象生徒の回答で、実習終了とするものが25%いたが、教務からの回答では週間実習は一校もなく、この25%はすべて見学実習終了と解した。

B 回答結果

(1) 学問的認識について

精神病に対する不治観は少差ではあるが准看群より高看群に不治であるとする率が高い。教育的背景からむしろこれは逆ではないかと推察していた。精神病、殊に分裂病に対する不治観は一般に根深いようであるが、理論に裏うちされた治癒概念⁶⁾を頭に入れて実習場面にのぞむことは、学習意欲、ひいては精神科看護に対する意欲向上という意味でも重要なこと

表 3 学問的認識について

| | 質 問 | 回 答 | 高 看 | | | 准 看 | | |
|---|----------------------------|------------|-----|----|----|-----|----|----|
| | | | 終 | 未 | 全体 | 終 | 未 | 全体 |
| | | | % | % | % | % | % | % |
| 1 | 精神病はほとんど不治だと思いますか | はい | 21 | 33 | 22 | 17 | 16 | 17 |
| | | いいえ | 69 | 50 | 67 | 70 | 66 | 66 |
| | | わからない | 10 | 17 | 11 | 13 | 18 | 17 |
| 2 | 開放療法は危険だと思いますか | はい | 8 | | 7 | 30 | 25 | 26 |
| | | いいえ | 38 | 92 | 84 | 57 | 49 | 51 |
| | | わからない | 9 | 8 | 9 | 13 | 26 | 23 |
| 3 | 精神病はあなたもなるかもしれない心の病気と相思ますか | はい | 72 | 66 | 72 | 77 | 71 | 72 |
| | | いいえ | 12 | 17 | 12 | 11 | 3 | 9 |
| | | わからない | 14 | 17 | 15 | 12 | 21 | 19 |
| | | 無回答 | 2 | | 1 | | | |
| 4 | 精神科看護の主な仕事はどれですか | 監視 | 3 | | 3 | 7 | 8 | 8 |
| | | 生活全般にわたる接触 | 96 | 92 | 96 | 77 | 79 | 78 |
| | | 作業療法の指導 | 1 | | 1 | 13 | 10 | 11 |
| | | 与薬 | | | | 3 | 1 | 1 |
| | | 無回答 | | 8 | 1 | | 2 | 2 |

「終」は精神科看護臨床実習終了者

「未」は精神科看護臨床実習未終了者

である。不治を否定するもの約70%は一般通念からして高率のように思えるが、肯定するもの約20%も、看護学生としてはまた、高率のように思える。高看実習未終了者の数が少ないため断定的なことはいえないが、2群とも僅かではあるが実習によって精神病は不治ではないと考える傾向になるとみてよいと思う。

開放療法の危険性に対しては「危険ではない」とするものが2群とももっとも高率で、特に高看群では84%を占めている。しかし「危険である」とするものが2群とも実習終了者に

僅かではあるが多いことは注目すべきことであろう。現在、すでに治療化され常識化されている病棟開放制^{56,67}に対して実習終了者に少数ながら危険性を認めるものが出たことは、実習によって危険性が強制的に観察されたためかもしれない、院内オリエンテーション、実習期間、方法に問題があると思われる。

精神病が誰でもなり得る疾病であるという認識の程度は、70%強であって相当高い。2群とも終了者に肯定率がやや高い。これは実習によって直接患者に接することにより、人間的共感あるいは連帯感を持つ機会が多かったためと思われる。

精神科看護の主な仕事については、高看群では、実習了未終了で無回答を除いた全員が「生活全般にわたる接触」をあげているにもかかわらず、終了者には少数ずつではあるが「監視」や「作業療法の指導」が出てきている。これは教室において得られた精神科看護に対する把握と、実際の臨床場面における観察とが異なっていたためという推察も出てくる。開放療法に関する質問の場合と同様、短い実習期間では監視や作業療法の指導が強く印象づけられたためかもしれない。「与薬」は准看群の2名のみで高看群には1名もいなかった。精神科治療体系の中で革命的な役割を果たし、また現にその中心を占めている薬物療法^{56,67}を考える時、もう少し与薬が高率に支持を得るのではないかと思ったがその予想はずれた。しかし、多くの学生たちの生活全般にわたる接触を精神科看護の主な仕事とする認識は決して誤ってはいない。准看群においては「生活全般にわたる接触」が78%と高看群に比して低率で、「監視」「作業療法の指導」が比較的高いことがめだつた。

表4 社会的認識について

| | 質問 | 回答 | 高 看 | | | 准 看 | | | |
|---|---------------------------------|----------|-------|----|----|-----|----|----|--|
| | | | 終 | 未 | 全体 | 終 | 未 | 全体 | |
| | | | % | % | % | % | % | % | |
| 5 | ライシャワー事件が精神衛生法改正に影響したことを知っていますか | 知っている | 64 | 75 | 65 | 26 | 23 | 23 | |
| | | 聞いたように思う | 23 | 17 | 23 | 30 | 31 | 31 | |
| | | 知らない | 13 | 8 | 12 | 44 | 46 | 45 | |
| 6 | 精神障害者は警察が戸別訪問により一応チェックすべきでしょうか | すべきである | 28 | 16 | 27 | 40 | 34 | 36 | |
| | | すべきでない | 48 | 34 | 47 | 36 | 23 | 26 | |
| | | わからない | 24 | 50 | 26 | 24 | 43 | 38 | |
| 7 | 精神病院の雰囲気は実習前に想像していたとおりででしたか | はい | 13 | | | 14 | | | |
| | | いいえ | よかった | 79 | | | 61 | | |
| | | | わるかった | 5 | | | 11 | | |
| | | | わからない | 6 | | | 14 | | |

(2) 社会的認識について

1964年3月24日に起ったライシャワー事件が精神衛生法改正をめぐって精神医療界を大きくゆきぶったことは衆知のとおりである。⁸表に示すように、高看群が准看群より「知っている」ものがはるかに高率である。准看群では「知らない」ものがほぼ半数に近い。これは年令的教育的背景からみて当然であろう。内容に対する理解度は不明だが、高看65%、准看24%という肯定率はかなり高いと考えてよいと思う。これは、ある病院における「患者家族の精神病に対する意識調査⁹」において精神衛生法のあるのを知っている一般学生(短大)が僅か10%強であったことと比較してもうかがえることである。

高看群においては、実習終了者が未終了者より「知っている」が低率であり「聞いたように思う」「知らない」が高率に現れている。准看群はその反対だが大差ではない。この種の知識が実習中に得られたものではないことが想像される。

患者の人権および医者の特権に関する認識を警察権の介入の是非という形で質問してみた。

肯定否定ともに実習終了者が未終了者より高率に現れている。実習場においてはじめて目の前にする精神障害者の姿がその意志明示に何らかの影響を与えたものと考えてよいであろう。

高看准看の比較では、准看の方に肯定率が高く否定率が少ない。これは質問そのものがむづかしく、若い准看には人権問題、あるいは医者の特権問題にまで結びつけにくかったのではないかと思われる。

各界有識者を対象とした同質の質問⁸で、19名中12名までがはっきり否定しているのと比較すると、高看47%、准看26%と否定度は低いが、若い未熟な学生にしては、かなりはっきりした意見を示したものと考えてよいであろう。

実習終了者に対する精神病院の雰囲気に関する印象を聞いた結果は、想像より良かったとするものが大部分で、高看76%、准看61%である。このことは、看護学生の精神病院観が現実とかけ離れて悪いのか、あるいは、よほどすぐれた精神病院に実習に行ったものと考えられる。ある報告¹⁰にも、見学実習後の感想として、精神病院が先入感と異っていたという学生が85.3%いたことが記されている。本調査では「悪かった」とするものを合わせると高看81%、准看72%が想像外であったことになり前記報告よりやや少ない。どちらにしても実習前に正しい精神病院の姿を紹介し、よりスムーズに実習態勢に入ることができるよう指導の必要があろう。

表5 実習病院背景（高看）

| 設置種別 | 病床数と種類 | 実習校数 |
|------|--------------|------|
| 国立 | 72 (総合) | 1 |
| 公立 | 240 (単科) | 1 |
| 私立 | 35 (総合) | 1 |
| | 400~702 (単科) | 4 |

実とかけ離れて悪いのか、あるいは、よほどすぐれた精神病院に実習に行ったものと考えられる。ある報告¹⁰にも、見学実習後の感想として、精神病院が先入感と異っていたという学生が85.3%いたことが記されている。本調査では「悪かった」とするものを合わせると高看81%、准看72%が想像外であったことになり前記報告よりやや少ない。

なお、高看における実習病院の背景は表5に示すとおりである。

表6 人間的認識について

| | 質問 | 回答 | 高 看 | | | 准 看 | | |
|----|-------------------------|----------|-----|----|----|-----|----|----|
| | | | 終 | 未 | 全体 | 終 | 未 | 全体 |
| | | | % | % | % | % | % | % |
| 8 | 精神病患者はこちらの意志が通じると思いませんか | だいたい通じる | 81 | 59 | 79 | 56 | 52 | 53 |
| | | ほとんど通じない | 7 | 8 | 7 | 25 | 24 | 24 |
| | | わからない | 11 | 33 | 13 | 19 | 24 | 23 |
| | | 無回答 | 1 | | 1 | | | |
| 9 | 精神科の患者は何となくおそろしいと思いませんか | はい | 28 | 25 | 27 | 62 | 68 | 97 |
| | | いいえ | 63 | 59 | 62 | 33 | 18 | 22 |
| | | わからない | 9 | 16 | 10 | 5 | 13 | 11 |
| 10 | 精神病患者は純真だと思いませんか | はい | 52 | 17 | 49 | 33 | 23 | 25 |
| | | 時々嘘をつく | 10 | 8 | 10 | 23 | 21 | 22 |
| | | わからない | 38 | 75 | 41 | 44 | 56 | 53 |

(3) 人間的認識について

患者との意思の疎通性に関しては、全体的にあって「だいたい通じる」と観察したものが2群とも半数以上を占め、特に高看終了群では81%にのぼる。未終了者より終了者に高率になっている。実際に、学生たちが接する患者の大部分は心の一部が病んでいる以外、他との疎通性は保たれていることが多く、患者と話し合った結果、意思の疎通性はかなり良好だと観察したのであろう。

患者に対する恐怖感、2群の終了者のみを比較すると「おそろしい」と思うものが高看群の28%に対し、准看群では62%と高い。反対に「おそろしくない」ものは、高看群63%に対し准看33%と大差を示している。

昭和41年5月に発表された一般看護婦を対象としたある調査¹¹⁾によると、80%の看護婦が精神科への勤務交替をいやがり、その理由として17%が「こわい」をあげている。同じ調査者による昭和35年の調査では「こわい」という看護婦が40%もいたことを考えあわせると、昨今の看護学生の認識には、かなり改善のあとがみられるといえよう。

しかし准看群にかなり高率に恐怖感が現れていることは、教育内容の在り方とともに年令的なものも見落とせないと思われる。

患者の純真性を知るには、まづ患者との人間関係の成立が先決であり、短期間の実習では判断のつき難いのも止むを得ない。他の質問に較べて「わからない」ものが高看41%、准看53%と高率を占めていることでもそれはうかがえる。

実習終了群に「時々嘘をつく」が若干高いが、純真性を肯定する率ははるかに高くなっている。全体的に肯定的であり、特に高看群にその傾向が強い。

准看群の実習終了未終了別に比較的大差がないこと、肯定否定の比重が高看群に較べると均等化の傾向にあることは、他の質問項目においてもいえることだが、年令差と同時に見学実習と週間実習の差によると考えられる。

(4) 職業的認識について

a. 労働条件について

現代の若い学生が給与に関して無関心であるとは思われない。回答結果をみると、全体では48%が精神病院勤務は一般病院勤務より給与は「高い」と答え、「低い」と答えているものは10%に満たない。「わからない」ものが10%前後で多数ではあるが、看護学生は精神病院の給与面での待遇はよいとみていると思われる。これは「看護婦実態調査(第3回)」¹²⁾において精神病院勤務看護婦一人一カ月当たり平均給与額が一般病院や結核療養所の勤務看護婦に比してかなり良くないことが指摘され、精神科看護業務従事の魅力を減少させる原因の一つかもしれないと考えられる時、やや意外の感を深くするものである。

夜勤があるために看護婦という職業から去って行く人は多い。前記実態調査では、3交代制を例にとると、夜勤日数に対する日勤日数の割合(前者1に対する後者の指数)は精神病院2.09、結核療養所1.73、一般病院1.58であり精神病院の夜勤の割合はもっとも低い。しかし学生たちは「多い」または「同じ」とみるものは10%に満たないのである。もちろん精神病院における夜勤においても、人事院判定月8回以内をはるかに上まわっていることはいうまでもない。

労働時間は一般病院勤務と同じとみているものももっとも多く、高看64%、准看36%であった。

両群とも実習終了者に「長い」および「同じ」とするものが未終了者より多い。これは実

表7 労働条件について

| | 質 問 | 回 答 | 高 看 | | | 准 看 | | |
|----|---|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | 終 | 未 | 全体 | 終 | 未 | 全体 |
| 11 | 精神病院看護婦の平均給与は一般病院看護婦より高いと思いますか低いと思いますか | 高 い | 47% | 67% | 49% | 54% | 46% | 47% |
| | | 低 い | 7 | 8 | 7 | 10 | 8 | 8 |
| | | 同 じ | 17 | | 16 | 5 | 11 | 10 |
| | | わからない | 29 | 25 | 28 | 23 | 35 | 35 |
| 12 | 精神病院勤務は一般病院勤務より夜勤の回数が多いと思いますか少ないと思いますか | 多 い | 34 | 42 | 34 | 32 | 28 | 30 |
| | | 少 ない | 9 | | 8 | 10 | 9 | 9 |
| | | 同 じ | 35 | 25 | 34 | 23 | 26 | 25 |
| | | わからない | 22 | 33 | 24 | 26 | 37 | 36 |
| 13 | 精神病院勤務は一般病院勤務より実際の労働時間が長いと思いますか短いと思いますか | 長 い | 12 | | 11 | 24 | 18 | 19 |
| | | 短 い | 9 | 17 | 9 | 13 | 16 | 15 |
| | | 同 じ | 65 | 58 | 64 | 40 | 34 | 36 |
| | | わからない | 14 | 25 | 16 | 23 | 23 | 30 |
| 14 | 日本精神科看護協会という職能団体を知っていますか | 知っている | 32 | 8 | 31 | 38 | 30 | 33 |
| | | 知らない | 68 | 92 | 69 | 62 | 70 | 67 |

習中に勤務看護者等から勤務状況を見聞いた結果であろう。実際にも前記実態調査によると、精神病院は他病院、療養所より勤務時間が長いのである。全体的にいうと学生たちは時間的には一般病院勤務と大差ないと考えていると思われる。

おそらくすべての看護学生は、卒業時に日本看護協会看護婦会への入会をすすめられるであろう。またすでに在学中、看護協会の名を見聞する機会は多いことと思われる。⁽¹³⁾日本精神科看護協会（日精看）に関しては以下の如くである。

実習終了者が未終了者より「知っている」が高率である。実習中に部長や看護婦から指導あるいは雑談の形で何らかの紹介を得たと考えられる。あるいは、実習にあたって、予習復習の形で学んだ雑誌、その他の文献から知識を得たものと思われる。

ここで特徴的なことは、准看群（38%）が高看群（32%）より「知っている」率が高いことである。これは今までのように単に年令的・教育的背景差だけでは割り切れないものがある。職業的関心度の差であろうかとも考えられる。いずれにしても高看群32%は、実習終了者ということとその背景から考えると、意外に日精看の存在は知られていないと考えてよいであろう。就職して数年にもなるのに日精看を知らない看護婦を見聞きする時この結果はなるほどと思わせるものがある。

b. 一般的評価について

昭和40年度精神科看護白書は、精神科看護に対する偏見が一般社会のみならず同職の看護婦内部にも存在する事実を紹介している。（本調査後、昭和41年度精神科看護白書——精神病院や精神障害者精神科看護に対する偏見と誤解について——が発表された）若い看護学生の中にもこのような偏見はないであろうか。精神病院へ勤務すると仮定してその時の気持をたづねてみた。

全体的にいうと精神病院へ勤務することを「なんともない」学生がもっとも多く42%であ

表8 一般的评价について

| | 質 問 | 回 答 | 高 看 | | | 准 看 | | |
|----|---|-----------|-----|----|----|-----|----|----|
| | | | 終 | 未 | 全体 | 終 | 未 | 全体 |
| | | | % | % | % | % | % | % |
| 15 | 精神病院へ勤務 するとしたらど んな気持ちでし ょうか | 誇らしい | 18 | 8 | 18 | 18 | 13 | 14 |
| | | なんとなく恥しい | 3 | | 2 | 14 | 14 | 14 |
| | | なんともない | 58 | 59 | 58 | 36 | 34 | 35 |
| | | わからない | 21 | 33 | 22 | 32 | 38 | 37 |
| 16 | 精神科看護は一 般科看護よりレ ベルが高いと思 いますか低いと 思いますか | 高 い | 31 | 25 | 31 | 39 | 31 | 33 |
| | | 低 い | 30 | 8 | 28 | 18 | 16 | 17 |
| | | 同 じ | 29 | 50 | 31 | 25 | 26 | 25 |
| | | わからない | 10 | 17 | 10 | 18 | 27 | 25 |
| 17 | 一般的にいつて 精神科看護はや りがいのある仕 事と考えられる でしょうか | 考えられる | 75 | 50 | 74 | 50 | 46 | 47 |
| | | 考えられない | 1 | | 1 | 11 | 11 | 11 |
| | | どちらともいえない | 24 | 50 | 25 | 39 | 43 | 42 |
| | | 無 回 答 | | | | | 1 | 1 |

る。しかし2群を較べると、高看群では58%、准看群で35%と差がある。また「なんとなく恥しい」と感じるものが准看に多く14%、高看では終了者に3%いるだけである。終了未終了の比較では両群とも終了者に「誇らしい」ものの率が高い。

看護学校3年生62名(3校)を対象とした別の調査¹⁴⁾によると「看護に対して誇りを持っている」と答えた学生は58%であった。このことから考えると、本調査の高看群「誇らしい」18%は少な過ぎる感もあるが、精神病院勤務と限定したという質問の特異性もあり、「なんともない」を含めると終了者の高看76%、准看54%は好結果といえるであろう。

精神科看護に対する偏見の一つに、一般看護より一段レベルの低いものとしてみる傾向のあることが指摘されている。α15少しひねくれた質問をあえて試みた次第である。

実習未終了の高看群では50%の学生は「同じ」と答え、25%の学生が「高い」と判断し、8%が「低い」と考えていた。ところが、終了群では「高い」「低い」「同じ」がほぼ同率で約30%ずつを占めている。学生たちの評価基準が何であるかは不明だが、親しく精神病院を観察した学生たちの30%強が一般科よりレベルが高いと見たことに対して意を強くしてよい。反面、「低い」率が大幅に高くなり30%の学生がレベルが低いと判断したことに対して謙虚に反省する必要があるだろう。実習未終了者数が少ないため断定的なことは言えないが、こうした差は良くもわるくも病院実習によって意見が左右されたであろうことは確かであると思われる。

准看群では高看群ほどはっきりした形は現れないが、傾向としては同様であり、むしろレベルは高いとみる傾向が強い。これは、一般科実習が高看に較べると種々雑多な場所で行なわれているためではないかと思われる。

最後に精神科看護はやりがいのある仕事と考えられるか否かについて質問した。実習未終了では2群とも「考えられる」「どちらともいえない」がほぼ半々の割合で両者あわせて高看100%、准看89%とその多数を占めるが、終了群では2群とも「考えられる」率が高くなっている。これはやはり実習による影響が大であろうと思われる。

高看74%、准看47%の学生が、精神科看護はやりがいのある仕事だと考えながら、それで

は果してどの程度に学生が精神科看護の道を希望しているであろうか。表9に示すように、看護婦志望学生は高看66%，准看86%であった。このうち精神科を希望するものは、表10のように高看7%，准看4%であった。表にみるように、内科、外科勤務に希望が集中し、この2科で70%以上を占め他科希望との差が大きい。精神科の場合、小児科に次ぎ四番目に希望され産婦人科、整形外科より多い。学生たちの目は意外に精神科看護に向けられていると考えてよいであろう。

なお、昭和42年3月卒業したこれら対象者のうち、実際に精神科へ就職したものは、高看9名、准看25名であった。これを看護婦志望学生数からその比率をみるとそれぞれ9%であった。これは就職先きの人事の関係、また准看の場合、すでに精神病院へ無資格のまま勤務していたという事情も推察されるところから、卒業前の志望以上に数的には多く就職しているのだと思われる。

表9 卒業後志望進路

| 背景 | 保健婦 | | 助産婦 | | 看護婦 | | 養護教諭 | | その他 | | 無記 | | 計 | |
|----|-----|----|-----|---|-----|----|------|----|-----|---|----|---|-----|-----|
| | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 高看 | 17 | 11 | 2 | 1 | 101 | 66 | 16 | 11 | 6 | 4 | 9 | 6 | 151 | 100 |
| 准看 | 6 | 2 | 1 | | 280 | 86 | 9 | 3 | 15 | 5 | 16 | 4 | 327 | 100 |

「准看」における看護婦志望280人は准看護婦志望63人を含む。

表10 看護婦志望学生の希望勤務科

| 背景 | 内科 | 小児科 | | 精神科 | | 外科 | | 整形外科 | | 産婦人科 | | その他 | | 不明 | | 計 | | |
|----|----|-----|----|-----|----|----|-----|------|---|------|----|-----|---|-----|---|-----|-----|-----|
| | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | |
| 高看 | 36 | 36 | 12 | 7 | 7 | 7 | 34 | 35 | 4 | 4 | 2 | 2 | | | 5 | 5 | 101 | 100 |
| 准看 | 70 | 25 | 35 | 12 | 12 | 4 | 142 | 51 | 4 | 1 | 15 | 5 | 1 | 0.5 | 1 | 0.5 | 280 | 100 |

IV 結 論

以上の調査結果から次の諸項を知り得た。

1. 病院実習による影響が大きい。良くも悪くも実際に臨床をみることによって影響を受けている。臨床側は学生たちが片寄った精神科看護観を持たないように実習環境を整えるべきである。それはとりもなおさず精神科看護の向上ということにつながっている。

2. 患者に直接接することにより人間的共感、連帯感を持つようになっている。また、概念としての精神科看護のとらえ方は正しい。この二つを結び合わせて実践の科学にまで高めさせねばならない。

3. 一般学生に比し精神障害に関する社会的認識は高い。社会的問題もマスコミその他にふりまわされることなく広い視野からより正しい姿でとらえられるよう指導教育すべきである。

4. 学生たちは精神病院勤務の労働条件は現実とは逆に、どちらかといえば一般病院、療養所より良いと考えている。一方精神科看護に対する一般評価はかなり良好であり、少なくとも偏見、誤解は少ないと思われる。また、精神科勤務希望も思ったより多い。こうした学生たちが、実際に勤務者として精神科看護に従事した時、まだ、かなり多くの問題をかかえている現場で、現実には敗北して没落しないで頑張っている精神科看護に関する真の魅力を教えてやりたいものである。

しかし現実には好ましい労働条件下にあるとはいえず、現代の職業が従来からの精神主義では

割り切れないものである以上、既成観念としての偏見、誤解、危険の中にあり、かつ、高度の知識技術を要する精神科看護に従事するものには、それに見合った待遇の改善がなされなければ真の魅力ある職場とはなり得ないことはいうまでもない。

5. 日本精神科看護協会は、その目的、活動状況、精神科看護界の現状等について正しい知識を得られるよう配慮すべきだと思う。

6. 精神科看護に関する偏見は、一般に流布されているほど多くなかった。しかしまだ精神病院は特殊な場所、精神科患者は特殊な患者と考える傾向もうかがえる。また、実習によって意見が左右されており、実習病院差も考えられるところから、全般的な看護向上に努力すべきである。

7. 准看生にはその年令の若さから無理のないことと思われるが、患者の心理把握がむづかしく恐怖感も多いことが知られた。10代という若さの精神科看護は非常に困難が多く問題があると思われる。

8. 准看生において、実習終了未終了の回答に差が少ないこと、高看群に比して各回答比率に均等化の傾向があることがみられた。これは、実習が見学程度であること、実習病院も生徒自身も比較的多種多様であること、年令の若さ等が考えられ、実習方法・内容に改善すべき問題があると思われる。殊に現実の看護場面では准看護婦におぶさらざるを得ない現場も多いことから、これは重大な問題であると思う。

おわりに臨み、終始ご指導ご校閲下さいました当看護科水野知文主任教授、また助言下さいました菊井和子元助教授に厚くお礼申し上げます。

又、御多忙中を本調査に御協力下さいました各教務の諸先生、学生の皆さんに心よりお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 日本精神科看護協会：昭和40年度精神科看護白書
- 2) 外口玉子他訳：患者への新しい接近法 医学書院
- 3) 池見酉次郎編集：精神身体医学の理論と実際 医学書院
- 4) 医学書院：保健婦助産婦看護婦准看護婦指定学校養成所名簿
- 5) 岡田靖雄編：精神医療 勁草書房
- 6) 江副勉監修：新しい精神科看護 日本看護協会出版部
- 7) 江副勉他：精神科看護の研究 医学書院
- 8) 松沢病院医局病院問題研究会 精神衛生法をめぐる諸問題
- 9) 水津・村田・山下：防府病院における患者家族会の成立過程について 病院精神医学第十三集春号
- 10) 西部志よう：最近の精神病院に対する感想文の統計的考察 看護研究第8巻日本精神科看護協会
- 11) 菊池三和他：総合病院における精神科の諸問題とこれからのあり方 看護研究第9巻 日本精神科看護協会
- 12) 日本看護協会看護婦会 看護婦実態調査(第3回)昭和40年9月
- 13) 日本看護協会：昭和42年度通常総会第13条規則改正案
- 14) 若林・仙田・宮崎 国立〇病院を臨床実習場としての背景を異にする三校看護学生の実態比較調査 看護教育Vol 8. No 12 医学書院
- 15) 日本精神科看護協会：昭和41年度精神科看護白書

本稿は、「看護教育」(第9巻第2号、医学書院)に掲載のものを再掲す。